

『リーダーシップの4つの誤解に挑戦する』

大阪大学特任教授
野村 美明

大阪大学のグローバルリーダーシップ・プログラム(<https://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/>) (「GLP」)は、学生がリーダーシップを学べる授業をいくつか提供している。そこで共通に用いている「共通テキスト」は、過去16年にわたるGLPの授業の多様なゲストの体験談や参加者の成功・失敗例(実践知)を整理し、理論的に裏付けたものだ。

共通テキストは、リーダーシップに関する4つの誤解に挑戦することを授業の最小限の目標に掲げている。1つ目は「リーダーシップは学べない」という誤解。2つ目は「教室と社会は違う」、3つ目は「リーダーシップはトップのもの」、そして最後は「リーダーシップは人格だ」という誤解である。

リーダーシップのように社会的に価値ある行為でも、複雑で理解しにくいものがある。昔からこれを「学べない」と諦めてしまうことが多かった。アリストテレスが「倫理」も習慣づけで身につけられると言ったのが参考になるだろう。日本では少し前まで「交渉」も学べないといわれてきたが、今では交渉を学んだ人材が色々なところで活躍している(大学対抗交渉コンペティション 20周年記念誌の審査員や参加者の体験談を参照(https://www.negocom.jp/pdf/upload/INC20_digital_A4.pdf))。

2つ目は、就活でリーダーシップの授業を受けたという学生に対して面接担当者が少し上から目線で言いそうなことだ。しかし、実は教室は多様な価値や考え方の学生が集まっていて、社会のミクロコスモスとも言える。教室で学んだことは社会でも応用できるのである。

3つ目が誤解であることは、最近の兵庫県知事や欧米の政治のトップを見ればわかる。この誤解は、トップにリーダーシップがあればいいのという願望の裏返しとも言える。

最後の誤解も、偉そうな上司が言ったら、この人にだけは言われたくないと影で突っ込まれそう。この誤解が根拠のないことは、人格者が必ずしもリーダーシップを発揮できていない社会の現実からも直感的に理解できるだろう。

リーダーシップはビジョンや信頼、コミュニケーションや自利利他など一つ一つが機能をもった行為のモジュールが統合されたものである(統合型リーダーシップ理論)。統合された全体を見ればとても学べないとか人格だとかと片付けてしまいそうになる。しかし、モジュールごとに、さらにそれを分析して「行為」のレベルまで分解すれば、練習できるようになる。

大阪大学のGLPのようなリーダーシップを学ぶ場が増えていけば、4つの誤解はリーダーシップを学び続ける若者たちの実践によって解消されていくだろう。